

かんぎよつがくしゅつじゅく

# 環境楽習塾かいさいを開催しました

れいわ ねんど だい かいめ かんきょうがくしゅつじゅく  
令和3年度の第3回目の環境楽習塾を開催しました。

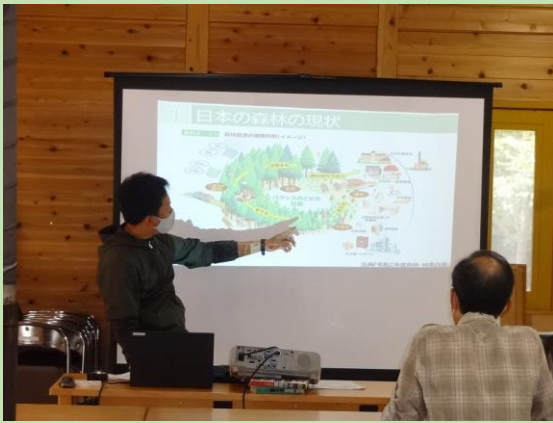
がつ にか にか は さとやませいび し  
8月8日(日)は『里山整備を知ろう②』  
をテーマに、日本の森林の現状を学び、森  
の健康状態を把握するための簡易な測量  
方法と立木の伐採を体験しました。

こうし とくていひえいりかつどうほうじん き もり  
講師は、特定非営利活動法人ぎふ木と森  
の学校の片岡伸輔理事長です。



こうざ はじめ さがく にほん しんりん じょうきょう  
講座の初めは、座学で日本の森林の状況  
について学びました。

にほん しんりん せんご う  
日本の森林は、戦後に植えられたスギや  
ヒノキの人工林がうまく使われずに荒廃  
しているそうです。その理由は、間伐など  
の手入れがされていないこと、森林で働く  
人の高齢化や専門技術を持った人材が  
不足していることなどがあるそうです。



こうはい しんりん けんぜん しんりん かみつじょうたい しんりん き まび かんぼつぎぎょう  
荒廃した森林を健全な森林にするためには、過密状態の森林から木を間引く間伐作業を  
積極的に行っていかなければならないそうですが、どれくらいの本数を切ったらよいか、  
その目安を学びました。森林で隣り合う木と木の間隔が樹高の20%くらいになることが望  
ましいそうです。この20%の数値は相対幹距比さうたいかんきょひといって密度管理の基準となる指標です。

この相対幹距比を算出するためには、1ha (100m四方)の中にある木の本数と樹高を調べる  
必要があるそうですが、斜面のある山で正確に1ha内にある木を数えるのは難しいため、  
1haの1/100である100㎡の中にある木を数える方法を学びました。

ざがく あと じっさい わがた もり じんこうりん  
座学の後には実際に我田の森の人工林に  
て、100㎡内にある樹木の本数を数える  
作業をしました。100㎡は10m四方です  
が、正確な四角形をつくるのは難しいた  
め、同じ面積を円でつくる方法で、1本中心  
となる木から半径5.64mの円をひもで描  
き、その中に入る木に印を付けながら数  
え、20本あることを確認しました。





あとは高さを測る必要がありますが、登って測るのは難しいため、1本の木を倒して長さを測りました。木を倒すにあたっては里山クラブ可児の皆さんの協力のもと、チェーンソーを使って伐倒しました。

伐倒する際は、枝などが干渉して木が途中で倒れないことがないように、ロープを引いて倒す方向を誘導し、安全対策を取りながら倒しました。倒れた時は大きな地響きがし、参加者の皆さんは驚いていました。その後、木の高さを測ると23mもありました。



調べた結果、今回調査した林では、20本のうち15本伐採すると健康な森となることがわかりました。

その後、倒した木を、チェーンソーを使って、木材として使えるように切る作業を体験しました。木を一本切るだけでも道具の準備や安全対策など、時間と労力がかかることを体感されていました。



### 【参加者の声】

- ・森林整備の大変さが改めてわかった。道具、環境、仲間が必要で、いかに継続させるかが重要と思います。
- ・体験型で非常に有意義でした。
- ・体験学習はとても楽しかったです。
- ・とても和やかで楽しい時間を過ごせました。チェーンソーも使える気がしてきました。

可児市役所環境課  
所在地/〒509-0292 岐阜県可児市広見一丁目1番地  
☎0574-62-1111 ☒kankyo@city.kani.lg.jp  
※詳細は可児市役所ホームページをご参照ください。  
🌐 <https://www.city.kani.lg.jp/>

環境楽習塾は、「清流の国ぎふ森林・環境税」を財源とした森林・環境基金事業です。

